



警務本部通報

第42期 第9号
平成20年3月21日

AEDで人命救助！

～大阪支社 EST 中江課長代理

大阪支社の中江課長代理がマラソン警備に従事中、とっさの適切な判断により、AEDを使用した心肺蘇生法を実施し、63歳の男性の意識を回復させ、救急隊へ引継ぐという好事例があった。この迅速で的確な対応を行ったことにより当社の警備品質の高さを示した。

好事例の概要～AEDを用いた迅速な対応～

平成20年3月16日(日)、ABC万国博マラソン2008は、大阪府吹田市の日本万国博覧会記念公園東の広場及び公園内周道路で、ゲストランナー間 寛平さんを迎え、参加ランナー3,000名を超える規模で行われていた。

午後1時14分ごろ、中江課長代理の詰めていた警備本部に「男性転倒、意識なし。」との通報と同時にAED要請があったので、直ちに救護本部と連携をとり、救急車の手配を行うとともに、AEDを持ち現場まで急行した。

周囲の騒然とした雰囲気の中で群衆の中に居合わせた医師の指示のもと、心肺停止状態とわかった63歳の男性(ファミリー1.5kmの部に参加しゴール後に転倒)に対して、衣服をとり電極パッドを胸に貼り、2回の電気ショックを行った。その間も片手には携帯電話で救急隊と連絡調整を行い続けた。

結果、傷病者の意識が回復、まもなく駆けつけた救急隊に引継ぐことができた。救急隊員は、「このAEDがなければ間違いなく、違う結果になったでしょう。」と語っていた。

中江課長代理は応急手当普及員の資格者であり、普段は心肺蘇生法等を指導しており自信を持って行動できた。また、警備隊のほとんどの者が普通救命講習を修了しており、落ち着いた行動をとったことにより人命救助という大きな功績となった。大阪支社ではこの3日前に大阪市北消防署長から消防功績顕賞(手当の普及啓発)を受けており、支社一丸となった活動は他の模範となるものである。

AEDの使用方法

当社は日本光電製(右写真)のAEDを販売・リースしている
電源をON

(日本光電製はフタを開けると自動で電源がONになる)

↓ 音声に従って

電極パッドを胸に貼る

(貼る場所は電極パッドに示されている。)

↓ 心電図解析の結果
電気ショックが必要な場合

ボタンを押して電気ショック

